

池澤春水（いけざわしゅんすい）

木は
いつも
情づいてる

身動もなほ
立ちあがり

根をたたく
根をおろし

花をひらかせ

虫を誘い風を誘い

結実も急ぎながら

そよぞよいる
遠くへ
どこか
をゆく

ようやく鳥が実を啄み
野の獣が実を噛む

リョウも旅行靴もスボも要らねた
小鳥のお腹が借りて

木はあまふいに旅立つ——空へ

池澤のり子詩集 五二五